

# TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

TOEIC導入の成果を考察する：  
東京海洋大学科学部TOEICクラスにおける教授法と  
追跡調査をもとに

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦, 竹子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/181">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/181</a>

[研究ノート]

# TOEIC 導入の成果を考察する—— 東京海洋大学科学部 TOEIC クラスにおける教授法と追跡調査をもとに

三浦 笙子\*<sup>1</sup>

(Received November 14, 2005)

## The Pros and Cons of Implementing the TOEIC in the University — An Assessment of Teaching Methods and Questionnaire Results in the TOEIC Classes at Tokyo University of Marine Science and Technology

Shoko Miura\*<sup>1</sup>

**Abstract:** This is a follow-up study on the results of teaching the TOEIC Class from April 2004 to September 2005 at Tokyo University of Marine Science and Technology. Last year, a study of faculty development in teaching the "TOEIC Class" in the same university was published in this journal to ascertain that encouraging self-study methods was effective in improving TOEIC test results. This year's study considers the pros and cons of introducing the TOEIC test as a part of English education for college students and uses a questionnaire given to the top 10 students in each class in order to assess the teaching methods in the TOEIC class and students' attitudes toward self-study. The study hopes to show the usefulness of the TOEIC class method, which strengthens students' motivation and self-drive, and, at the same time, to consider the meaning and possible consequences of giving the TOEIC test to college students. The TOEIC, when used as a motivating tool, can be very effective for college students, while it is inadvisable to regard it as a tool to assess students' English ability as a whole.

**Keywords:** Testing college students with TOEIC, English teaching methods with TOEIC, TOEIC in college education, the TOEIC class, student questionnaires on TOEIC

### I. はじめに

この数年、「トイック」を英語に導入するという考えが日本中の大学に広がっている。国立大学で全学年導入を果たしたのは本学が初めてということで、問い合わせを受けることが増えたが、果たして TOEIC は日本の大学生の英語力を救うことができるのだろうか。ここでは TOEIC を導入する意味と利用価値について考察したい。

2000 年 4 月、本学科学部（当時東京水産大学）では新入生全員に TOEIC テストを導入した。英語教室のプロジェクトとして学長裁量経費が配分され、新入生オリエンテーションの午前中 2 時間をこのテストに充てた。TOEIC 導入の最大の目的は英語のコア・クラスである Basic English のクラス分けであったが、もう一つの目的は、入学時から英語を将来のために重要な科目として学生に認識させ、学習の動機づけを強化することだった。導入後、TOEIC テストに再度挑戦し、英語力を上げたいという学生の強い声に応え、2001 年に英語のカリキュラムに「TOEIC クラス」

という TOEIC スコアをバネとして利用し、英語力を総合的に伸ばすクラスを加えた。

### II. 研究目標

本研究ノートは、まず、TOEIC を他の英語検定試験と比べ、本学科学部での導入の理由を報告する。次に、昨年度 TOEIC クラスのアンケート調査を参考に、TOEIC 導入の成果を明らかにする。最後に、本学の TOEIC クラスの経験を踏まえ、大学英語のあり方として、TOEIC を取り入れるべきか、取り入れるならどのような形がよいかを考察する。

### III. TOEIC 導入の理由

#### 1. 日本における 3 種類の英語検定テストの概要

主にイギリス留学に使われる IELTS などもあるが、日本の大学生が受ける三大英語運用能力検定試験は TOEIC (Test of English for International Communication), TOEFL

\*1 Department of Marine Policy and Culture, Tokyo University of Marine Science and Technology, 5-7 Konan 4-chome, Minato-ku, Tokyo 108-8477, Japan. (東京海洋大学海洋政策文化学科)

	TOEIC	TOEFL	英 検
作成機関	ETS (Educational Testing Service 米)	ETS (Educational Testing Service 米)	日本英語検定協会 (日)
判定レベル範囲	10～990 点	iBT (*2) 0～120 点 CBT 0～300 点 PBT 310～677 点	1 級, 準 1 級, 2 級, 準 2 級, 3 級, 4 級, 5 級の 7 つ
試すスキル	マークシートの Listening (会話問題を含む) Reading (文法問題を含む)	PBT と CBT の場合: Listening, Reading, Writing 2006 年から始まる iBT の場合: コンピューター入力による選択問題 Listening, Reading と Writing (長文入力), Speaking (会話応答をコンピューターに録音)	マークシートの Listening, Reading, Writing (選択・記述形式) 会話の個人面接
試験の目的	外資系企業や国内企業が英語による仕事のために社員に求める英語	海外 (主にアメリカ・カナダ) の大学・大学院が留学生に求める英語	日本人一般 (英検 2 級が高校英語レベル)
テスト形体	カセットテープと問題冊子, マークシート	今まではコンピューターによる受験とペーパーテストの形体だったが, 2006 年 5 月からインターネット上のテストによる録音も加わる。	客観形式のマークシートと会話を試す面接
所要時間	2 時間	約 4 時間	級によって異なる

\*2 (iBT=internet-based test CBT=computer-based test PBT=paper-based test)

(Test of English as a Foreign Language), そして英検である。しかし, その内容と形式には様々な違いがあり, ここで整理する必要がある。

## 2. TOEIC を選択した理由

本学では英語は必修科目でなく, 8 単位必修の語学うちの選択必修科目である。しかし, 英語のコアクラスである Basic English を新入生のほぼ全員が履修する。約 10 年前, 語学が少人数制を布いたことを受けて Basic English をレベル分けしたが, 手作りのテストを新学期初めの忙しい時期に行い, 採点し, 仕付けるのは困難だったため, 何らかの検定試験の導入を考えた。TOEFL, 英検と比較し, 2000 年の導入時に本学は次の理由で TOEIC テストを選択した:

- 英検のような合否判定でなく, 点数で評価すること
- 国際社会で通用する資格試験であること
- 実践英語を問う試験であり, レベル的に新入生に相応であること
- 所有時間がオリエンテーション期間に可能な範囲であること
- クラス分けに使うため, 平均以下の学生のレベルも数値で表示されること

TOEFL が 2006 年 5 月に開始することになった「iBT」は, これまで求めてきた 4 スキルを試すテストだが, 4 時間もかかる試験であり, 英作文やスピーキングのコンピュー

ター上の録音など, コンピューター・リテラシーを必要とする。高校卒業直後の新入生の中にはこのような能力とコンピューターアクセスを持ち合わせていない学生が多い。また, TOEFL はある程度英語能力 (特に文系の読解力) を持つ留学志望者を対象とするテストであり, 語彙レベルが高すぎて, TOEFL 677 点満点のうち 310 点以下を表示しない。

## 3. 本学の TOEIC 状況

TOEIC は個人として申し込めるだけでなく, キャンパス・トイックという格安の団体申し込みが可能である。ETS は一年に最低 4 種類の TOEIC テストを作成するので, 学生は多くて年に 4 回 TOEIC を受けることができる。TOEIC クラスはこのキャンパス・トイックを学期初めと終わりに利用して, 学生のスコアを伸ばしていく。

全国では本学のように学年, あるいは学科で一斉に受ける場合もあるが, 個人的に希望して受ける場合が多い。全国大学生平均点は, 個人希望者は高得点が取れる準備をして受ける場合が多いので, 一斉に受験する学生より高く, 本学の平均点と同じ条件で比べることはできないが, 一応参考のため, 2001 年度の日本全国の大学生 (1～4 年生) の TOEIC 平均点は下記の表の通りである。

また, 2001～2004 年度の全国大学生の平均点は, 次の表の通りである。(\*4)

わずかだが, 総合点は上昇しつつあり, 毎年変化の少ない Reading に比べ, Listening は伸びている。日本の大学生がリスニングに少しずつだが強くなっている傾向にあるこ

2001年度全国大学生(学年別)のTOEIC平均点(\*3)

学 年	受験者数	Total	Listening	Reading
1 年	38,807	356	201	155
2 年	23,088	411	231	180
3 年	39,196	452	251	201
4 年	11,932	479	266	213

\*3 (TOEIC 運営委員会「TOEIC テスト 2001 DATA & ANALYSIS」p.8)

年 度	Total Score	Listening	Reading
2001	414	232	182
2002	418	235	183
2003	421	240	181
2004	425	242	183

\*4 (TOEIC 運営委員会「TOEIC Newsletter」No.91 2005 年 8 月 p.11)

とが分かる。

下の表は 17 年度 4 月の本学科学部新入生 TOEIC の平均点を合計点、リスニング点、リーディング点で過去 5 年と比較している。導入後 5 年間の新入生 TOEIC の平均点は、2005 年まで毎年少しずつ上がっており、本年度は前代未聞の 32 点の前進を記録した。単なる憶測であるが、これは 18 年度のセンターテストにリスニングが入るため、全国の高校英語でリスニングを強化し始めたためと推測する。

年度	西暦	Total Score	Listening	Reading	前年度との比較		
					Total	Listening	Reading
17	2005	408	240	168	+32	+20	+12
16	2004	376	220	156	+5	+6	-2
15	2003	371	214	158	+3	+10	-6
14	2002	368	204	164	+5	+1	+4
13	2001	363	203	160	+9	-1	+10
12	2000	354	204	150			

#### IV. TOEIC 導入後の英語カリキュラムと TOEIC クラス

1 年生にとっては 4 月に受けた TOEIC は大いに学生の動機付けとなっている。このバネ効果を利用して、英語では 2001 年から TOEIC クラスを設けている。科学部の英語カリキュラム 36 コマは、内容的に 5 コマの TOEIC クラスと 31 コマのコミュニケーション・クラスに分けられる。科学部の英語のほとんどはスピーキングとライティングが主体の出力英語を教えている。TOEIC は、昨年度の「研究ノート」でも述べたとおり、受信型の Listening と Reading

のみを試す試験なので、TOEIC クラスは読む、聴く能力を重視する。時々会話を入れてスピーキングを経験させているが、読む・聴くが主な学習形態である。

TOEIC クラスの教授法は、自己管理・自己学習を植えることが中心になる。他の面では読み・聴きを教える普通の英語のクラスとほとんど変わらない。ただ、スピードを重視する。ラピッド・リーディングを眼の動きを意識させて訓練したり、音読を速めてタイムを測ったり、CD のリスニングのスピードを速めて、頭の中を通る英語のスピードを上げる。自宅ではどのように訓練すればいいか、自己学習の方法や教材の選び方を教える。基本訓練として、声を出して英語を読み上げる訓練で、シャドウイングにより教員の後につづいて同じスピードで音読する。また、聴く英語、読む英語を筆写して、語順とスペルを正確にし、キャッチできる英語の量を増やしていく。

始めは「宿題」をプリントなどで与えるが、そのうち自己学習の課題を学生が自ら増やしていくので、教師が与える必要がなくなる。それでも、コンスタントな英語のコンタクトを確実にするために、ある程度の宿題は必要なので、CD を何度も聴いて文章や会話を暗記・暗唱させ、dictation test を行い、Japan Times の記事を毎週最低三種類読み、一つを英語で要約させている。

#### 1. 2004 年度の調査

2003 年 9 月の『東京水産大学論集』の「研究ノート」に発表した 2002 年度 TOEIC クラス(Effective)調査の追跡調査として、平成 16 年度に同じ 2 年次の TOEIC クラス 2 コマの学生の伸びを調査した。2004 年度は 4 月のスタート時点で 380 点以下の学生を C クラス(水島孝司先生担当)、それ以上の学生を J クラス(三浦担当)にクラス分

C クラス			J クラス		
2004 年 9 月	2005 年 2 月	半年の伸び	2004 年 9 月	2005 年 2 月	半年の伸び
380	505	125	515	710	195
415	555	140	610	780	170
430	635	205	545	710	165
320	475	155	300	425	125
410	550	140	400	520	120
485	580	95	460	565	105
345	460	115	465	570	105
365	480	115	660	750	90
310	405	95	340	425	85
375	465	90	470	555	85

9 月 平均点	半年後 平均点	伸び 平均点	9 月 平均点	半年後 平均点	伸び 平均点
383.5	511	127.5	476.5	601	124.5

けをした。また、今回の調査は後期のみ（9月～2月）の伸び率においてのトップ10名（クラスの約3割）を測った。個人及び、平均伸び率は次のとおりである。

TOEIC 専門家によると1日1時間の英語学習を毎日続けると1年間で100点伸ばせるのだが、半年間の両クラストップ10の平均伸び率は120点を上回った。TOEICの得点を上げるという意味では、TOEIC導入がもたらしたTOEICクラスは著しい成果を挙げているといえよう。

## 2. トップ13名のアンケート調査

科学部のTOEICクラスは宿題の上に自己学習を課すので、英語の授業の中でも非常に努力を要求することで知られている。一日一時間という勉強は、受験生活を終えて遊びたい大学生にとって簡単にできるものではない。スポーツと同じで、練習を怠って放置すれば語学力というものも下がっていくのが現実である。

では、学生はどのようにTOEICクラスを受け止めているのか。半年で平均120点上げた学生達にアンケートを実施したところ、13名の回答が返ってきた。このアンケートはTOEICクラスの今後の教え方の参考材料として使うことが目的だった。ここではかいつまんで、参考になるところだけを紹介する。

### 1. TOEIC以外の英語資格：

- 英検2級 2名
- 英検3級 3名

### 2. 1日平均の学習時間、接触時間、使用時間

- 30分以下 2名
- 30分～1時間 6名
- 1時間以上 4名
- 2時間～2時間半 1名

### 3. 授業外で選んだ学習方法

- a) 英会話学校に通った1名
  - b) NHKの英語番組を利用した3名
  - c) 英語の新聞、雑誌を読んだ4名
  - d) 市販のTOEIC教材を利用した7名
  - e) 市販の英語教材（TOEIC以外）を利用した1名
- その他

——洋楽を聴いて勉強した。

——「天声人語」の英語版を読んだ。

——卒論のテーマに基づいた英語の論文を読みました。

——食事の支度など何かをする前に単語を5個くらい覚えて、反復しながら物事をやったりした。自分の思ったことを英語にして頭の中で言ったりした。洋楽は聴きました。映画もみました。学校でもレポート書きながらALCを聴いたりした。普段自分が話したり考えたりしたことを英語で言った。文章を声に出して

読むようにした。ジャパントイムズの宿題は強制的に自分を英語の文章を書くようにできたので、よかった。

### 4. TOEICを利用した授業を受けたことで、英語学習の方法に変化がありましたか。

——音声を利用した学習というものを取り入れるようになりました。特に音読を含め、実際に口に出すという方法は、それまでにほとんど行ったことがありませんでした。

——英語に触れる時間を意識して増やすようになった。

——大きく変化がありました。私は今まで英語の学習の場合、単語や熟語、長文を読むだけでリスニングはほとんど行っていませんでした。しかし、授業を通して、リスニングを行い英語の文章などを暗記することが英語の上達にとっても役立つ事が分かりました。

——これまでは、ただ単語や文法を覚えることだけだったのが、例えば英文を音読するときにもスピードやアクセントなどに注意し、さらにより正確な音読を心がけるようになりました。また、CD等を利用して、実際の英語を聞きながら音読にそれを反映するといったこともするようになりました。他には、インターネットで興味のある新聞記事を英文で読んでみるなどといったこともしています。

### 5. 半期でTOEICスコアが大きく伸びた一番の理由は何だと思いますか。

——ただ文法の勉強などをテキストを使ってやっているよりも、TOEICのスコアアップという具体的な目標があるとやる気が出る。また、勉強法、対策がはっきりしているので勉強しやすい。

——英語を学習する意欲が増したことから考えています。これは就職活動や進学といった進路の選択を前にし、自分の将来を考えることを通じて、英語を学ぶ目的を再確認したことによると思います。

——語彙が増えてリスニング、短文がより理解できるようになったこと。長文を速く読めるようになったこと。

### 6. 後輩にアドバイスしたいことを書いてください。

——TOEICのスコアアップという明確な目的のもと行われている授業は、実はとても画期的なのだと思います。その授業を受けられることを幸せに思い、真剣に授業に取り組むだけで、自然とスコアはアップします。がんばってください。

——この授業では、課題やテストのために勉強したり、授業に出席したりして最低限単位が取れば良い...という気持ちではなく、自分のTOEICスコアアップや英語力を上げるという気持ちで取り組んでほしい。

——英語を絶対に話せるようになりたいと強く思う

こと。それにより常に英語に対して向かい合っていることがいいのでは？あと、恥ずかしがらないこともすごく大切だろう。たくさんの人が多分、恥ずかしいだけで、意外に話せるのではないか。発音をそれっぽくしてみたり、ジェスチャーを入れるのに照れを感じているのではないかとよく感じる。そういうのを取り払って英語をやるといいのではないかと思われる。

アンケートで非常に参考になったのは、学生がこれだけ伸びた根底には、TOEIC を一つの階段のように利用して上っていること、また、それが自分の学習意欲向上のために役立っていることを理解していることである。TOEIC クラス履修前より自己管理ができていて、自己学習の習慣が定着している。単位のために英語を取るといような受身の気持ちでなく、自分の目標を強く意識し、目標に近づく手段を把握しており、自発的によい教材を吟味し、勉強している。教師のような眼で自分の学習を見ており、教師のような用語の使い方もする。まさに、自己管理・自己学習が身についたのである。このような学生達なら、社会に出ても英語を続けるだろうし、キャリアなど、他の目標にも伸びていく態勢ができていといえよう。

## V. TOEIC は大学英語に取り入れるべきか。

TOEIC を大学に取り入れるべきかどうかは大学の特徴と英語教師陣の事情によって様々な議論が出ることであろう。概して、大学経営陣は TOEIC に賛成、教師陣は反対である場合が多いようである。TOEIC を大学に取り入れるべきでないという意見には次のような理論が想像できる。

(1) TOEIC のようなビジネス英語中心の材料だけを大学英語として据えれば、かつて日本人が誇りに思っていた大学教養英語はどうなるのか。文化コンテキストがなくなり、駅前の語学スクールと同じ「資格受験塾」に変わり果てるのではないか。

この理論は説得力がある。大学によっては、TOEIC など必要とせず、このような日常会話やビジネス用語は不必要な場合も多い。また、文化コンテキストが TOEIC の試験にないわけではないが、常識的にアメリカで生活し、仕事の場で交渉できる英語だけを試すのであって、教養を見せる場で必要な語彙においては非常に貧弱な教材である。また、大学ではアカデミックな英語が対象となるべき、という考えは必ずしも正しくないかもしれないが、それにし

ても TOEIC の英語はあまりにも範囲が限られている。できることなら、ビジネス英語色をもう少し薄くして、生活用語を少し高度にした内容が欲しいところである。

(2) TOEIC は受信型の英語のみの試験である。発信型、つまり、英語が話せるか、書けるかは、TOEIC では客観的に測れない。どの大学英語教師も理解していると思うが、最近まで日本の英語教育は受信型に偏りすぎていた。発信できる「英語が使える」日本人を創ろうと、文部科学省も必死である。ここで大学が次々と TOEIC を導入し、TOEIC スコアを上げるための授業だけに集中すれば、英語が聴きとれてビジネスレターが読める学生は増えるが、英語を話す・書ける学生は減る可能性がある。また、専門分野の英語は TOEIC では試さない。

## VI. 結 論

それでは、TOEIC をすべて排除するべきか。本研究で報告した TOEIC クラスの成果を見ると、大学で TOEIC の利用価値がないとは言えない。また、TOEIC 導入とは、TOEIC を学生に受けさせれば果たされるわけでもない。テストするだけで学生の英語力に進歩は得られるのだろうか。何のための TOEIC 導入なのか。また、学生に受けさせた後の教育者としての責任はどうなるのか。学生は突然自分の英語力に目覚め、または反省し、向上しようとする。この責任に込めて科学部は TOEIC クラスを設けたが、工学部もまた、平成17年4月から新入生 TOEIC を導入し、以前から TOEIC を教材にした授業を英語カリキュラムに入れていた。

しかし、TOEIC 導入は一部の学生のみ、意欲を湧かせるということ忘れてはならない。TOEIC は決して英語教育改善のマジックワードではない。新入生の中には、TOEIC が苦痛の2時間である学生もいる。聞き慣れないビジネス用語に混乱し、いままであった意欲を失くすこともあるだろう。TOEIC クラスよりも、高校で乏しかった発信型授業に魅力を感じる学生も多い。TOEIC クラスはカリキュラムの一部のみに抑えることが最善の策であろう。5年間の履修状況をモニターしたが、科学部では TOEIC クラスは5コマ（全英語コマ数の7分の1）が今のところ適当と見ている。今後も TOEIC のように学生のやる気を出す材料を求め、研究を重ねるつもりでいる。

事情はどの大学も違い、要求される英語も違うと思うが、本学の英語の経験が何らかの参考になれば幸いである。

TOEIC 導入の成果を考察する——  
東京海洋大学科学部 TOEIC クラスにおける教授法と追跡調査をもとに

三浦笙子<sup>\*1</sup>

(\*1 東京海洋大学 海洋政策文化学科)

最近 TOEIC 導入を始める大学が急増している。本学科学部も 5 年前から TOEIC を新入生全員に受験させているが、それは何を意味し、どのような問題や成果があるのか。本研究は過去 4 年間教えてきた TOEIC クラスの経験や研究してきたデータと、今年度実施した TOEIC クラスのアンケートをもとに、これらの質問に答え、大学英語に TOEIC を取り入れるべきかを検討する。

**キーワード** : TOEIC 導入, TOEIC 教授法, 大学教育における TOEIC, TOEIC クラス, TOEIC クラスについての学生アンケート